

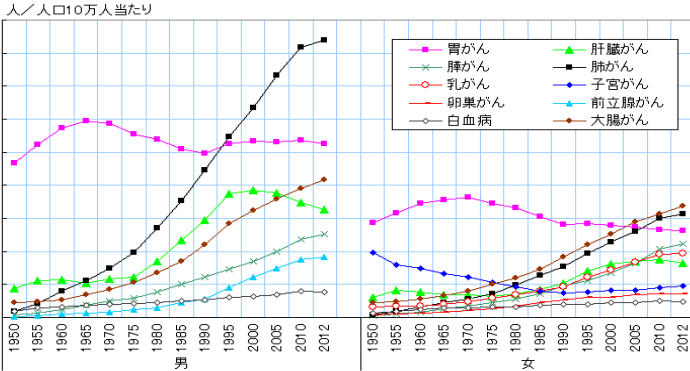
健康だより

発行：勤医協苦小牧病院
第5号

肝炎ウイルスと肝臓ガンのはなし 最先端治療も含む

今回は癌の予防、特に肝臓ガンについてです。前回は提示しましたが、左のグラフをご覧ください。左下の折れ線グラフは左が男性の疾患別で右が女性です。黄緑色の折れ線グラフが肝臓ガンです。男女ともピークを超えて死亡率は男女とも減少傾向にあります。それには理由があります。肝臓ガンは健康な肝臓から突然ガンが発生する事はまれです。肝臓ガン患者のうち90%はウイルス肝炎（B型、C型）にかかっているからガンになると言われています。現在肝炎ウイルス感染後で通院されている方には「ガン」とシヨックでしょう。

主な部位別がん死亡率の推移



(注) 肺がんは気管、気管支のがんを、子宮がんは子宮頸がんを含む。大腸がんは結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸のがんの計。

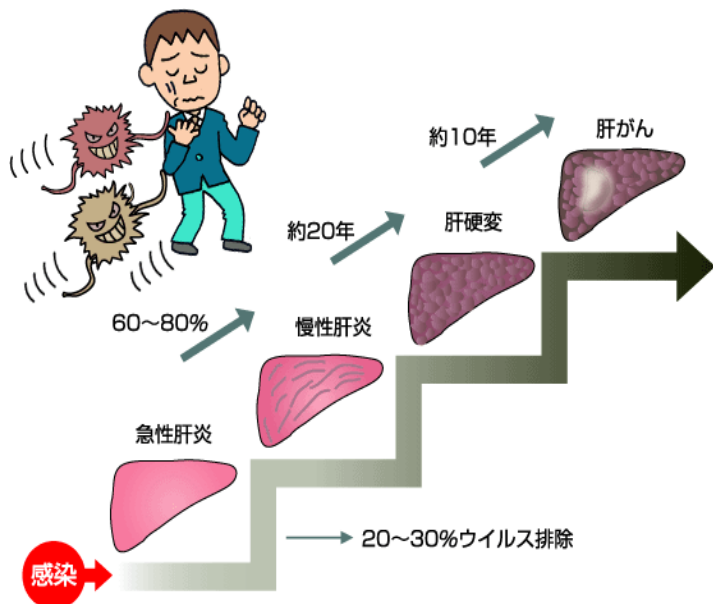
(資料) 厚生労働省「人口動態統計」

(だじゃれで申し訳ありません)

しかし悲観する必要はありません。治療方法があるからです。肝臓ガン患者の8割はC型肝炎に感染している、といわれています。日本ではC型肝炎はI型とII型が大半です。II型は10年前から発売されているインターフェロンの注射とウイルスを殺す内服薬(リバビリン)で80%弱の人がウイルス排除可能です。今までは日本人で最も多いC型肝炎のI型の人が前記のインターフェロン注射とリバビリンの内服では50%程度しか排除できませんでした。去年の10月から新しいもう1種類の内服薬(商品名ソプリアド、1錠1万3千円)が発売され、I型初回治療の人でも80%強の人がウイルス排除可能となりました。値段をみてびっくりされたと思いますが、ご安心下さい。当院でインターフェロン治療を受けられる方全員、国や道の肝炎治療助成の申請をしながら開始しております。大半の方は1ヶ月の治療費(インターフェロン注射内服の種類)がソプリアド、1錠の値段以内にとまります。

C型肝炎は感染してすぐに肝臓ガンが発生する訳で

はありません。左の階段状の図のように感染→急性肝炎→慢性肝炎→肝硬変となって感染してから30年以上経過してから肝臓ガンになります。(ただし50〜60歳代に初感染した場合は10年〜20年程度で肝臓ガンの出現があるようです)しかも肝硬変より慢性肝炎の時点でインターフェロン治療を開始した方がウイルス排除率が高い事も明らかになっています。



ではインターフェロン治療でウイルス排除できなかった人は?という疑問を抱いたそのあなた、ご安心下さい。インターフェロン注射を使わない、内服薬の種類【商品名ダクルインザとソペンブラ】が年内に発売になります。発売になれば、当院でも治療が可能となります。ただしその内服薬2種類もウイルス排除率は80%前後といわれています。それでも排除できなかった人は?アメリカの治療で

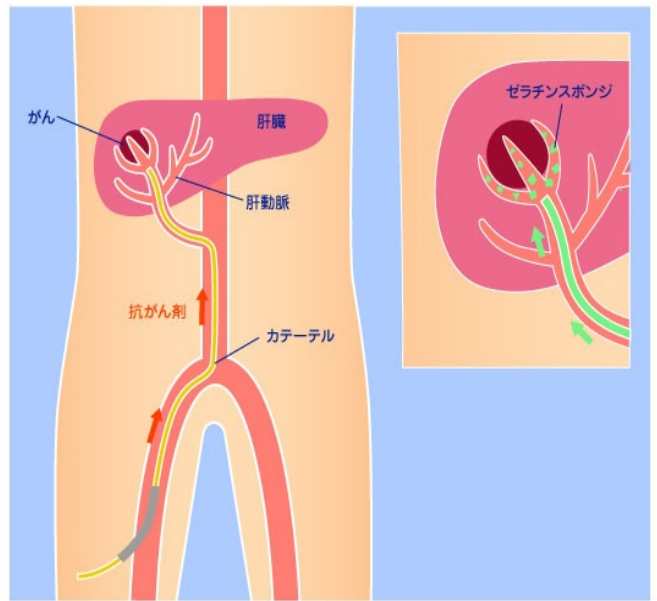
現在のところ100%ウイルス排除できる内服薬が開発されています。数年後に日本でも発売となると思われます。

今までC型肝炎についてばかり述べましたが、B型はどうでしょう。残念ながらB型肝炎はインターフェロン治療もあるのですが、完全排除は現時点では難しいです。しかし内服薬で血液中から追い出す、B型肝炎ウイルスを殺す内服薬はありません。ただし勝手に内服を中止すると、肝臓内に潜んでいたウイルスが増殖を再開し、血中にも大量に出現し、重症な人は黄疸↓劇症肝炎となり亡くなる方もいらっしゃるので、治療を開始した場合は内服継続が重要です。しかもやっかいな事に左の階段の図のように肝硬変になる前の慢性肝炎の時点で突然肝臓ガンとなる事が多いといわれています。ガンの早期発見が重要です。当院では肝のエコー肝の造影CTで早期発見に努めております。

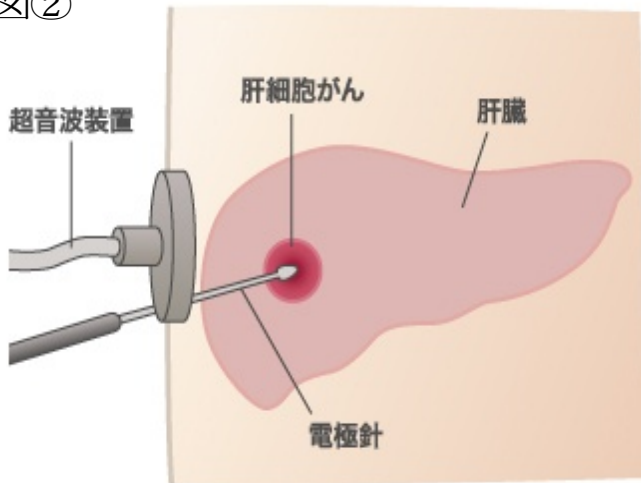
3個以上ガンがある場合は足の付け根からカテーテルを挿入し、動脈の中を通り肝臓の中までカテーテルを挿入し、ガンのそばで抗癌剤を流したり、そのガン栄養する動脈を遮断(金属やセラチンで詰める)し、ガン細胞を殺す治療もあります。(下の図3)

【治療費200-300万円】
保険が効かず高額となりますが、今月か

図3 肝動脈化学塞栓療法



図②

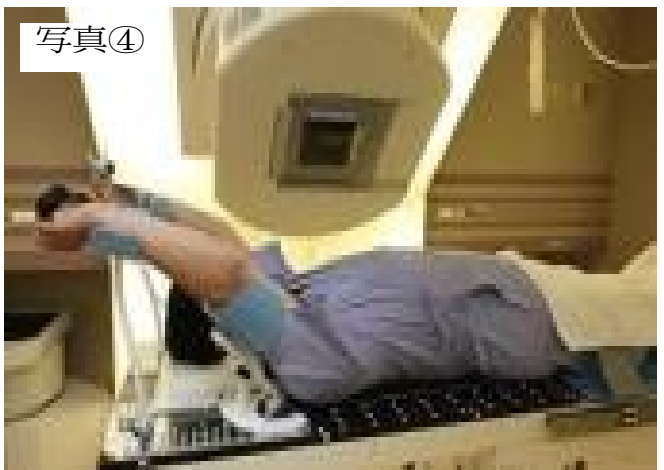


ら北大病院で陽子線治療も可能となります。この治療に年齢制限はありません(簡単にいうと放射線治療のいことみたいなものです。下の写真4と5) 皆様へ、B型やC型肝炎に感染しているかどうか?まず病院を受診され、血液検査で調べる事をお勧めします。

文責
勤医協苦小牧病院 内科医長 代田 充
勤医協厚賀診療所所長 代田 充



写真④



写真⑤

